

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホームあんしん勝浦上植野		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	平成30年2月12日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成30年2月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて、共に支え合いその人らしさを大切に、和の心を持って四季を感じる思い出作りに努めています。季節にちなんだ地域のイベント事には、積極的に参加し地域との関係を深めています。  
目の前に広がる自社農地にて、耕作した安心できる米を提供しており、食の安全を図っています。

昨年度の外部評価の利用者ご家族アンケートで、「職員全員の人数や名前もわからず、夜勤の対応が心配である」という改善要望を頂いており、今年度は早速、似顔絵による職員紹介表を玄関に掲示して頂いていたことには感激した。利用者家族の要望については実現可能なものには積極的に対応して頂けると嬉し。利用者にとって、地域との関りを継続しながら生活していくためには、外部からの訪問者を出来るだけ多く確保していくことが重要であるという事である。家族ももちろんではあるが、近隣に住む方々が立ち寄ってくれるケースも増えており、それらの人から、地域で支えあってきた人々との関係を詳しく聞き、関係継続の支援に役立っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し送り)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。	法人の2つの理念を玄関や事務室に掲示し、朝礼時に唱和している。毎月1日の職員会議では、職員全体で理念に沿った目標や行事等について話し合い決定し実行している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶してコミュニケーションを取るようになっている。地域のイベント事に参加させて頂いている。	自治会に加入し会議の場等を提供し、祭礼の際には神輿の休憩場として提供したり利用者が神輿を触ったりして住民の方々とのコミュニケーションの場ともなっている。散歩の際に畑の方に花を見せてもらったりして日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。利用者様も会議に参加し、交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長さん始め地域の方、市役所管理健康課の職員にて意見交換を行っている。	今年度は地域包括、区長、民生委員、地域住民、家族等が参加し、3回の運営推進会議を開催した。委員からは、初詣をやっている事業所もあるが外出支援はしているのか等の意見があり、地元の神社へ交替で初詣に行ったりしてサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護課の担当者に相談に行き、意見を伺っている。	市役所へ介護保険の更新や報告・相談等に行くと顔見知りの為かすぐに係長が来て対応してくれる。空き室の相談等でも協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り・目配りの強化をし身体拘束のないケアに努めている。玄関は防犯と安全上の理由により夜間のみ施錠している。	県の研修等外部研修に参加し、レポートや資料を基に職員会議で発表し、職員全員で共有するようにしている。ベットの柵や「〇〇はダメ」等言葉の拘束等についても身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員に教育するとともに資料等を活用し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば出席させたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に会議を設け、意見交換を行っている。面会に訪れた利用者ご家族に対して近況を報告し、意見要望を聞いている。	運営推進会議や面会時には極力意見・要望等を聞くように心掛けている。アンケートの中には料金の割には食事が悪いとの意見があったが殆どの方は大変よく接してくれるので感謝している等の意見が多かった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞き、職員の意向や希望に沿うように努めている。また、全体会議を定期的実施し、職員の意見や提案を運営に反映している。	職員から要求がある毎に個別面談を行っている。意見や提案の中にはトイレトーパーを1人で1ロール使用する利用者をどうしたらよいか等があり、声掛けの仕方や成功例について話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情から安心を感じられるように心がけ要望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方、近隣に住む親戚の方、友人の方、面会に来られるので職員が良い関係を築けるよう努めている。	東京にいる家族が季節の花を持ってきてくれたり、玄関に置いて行ったりしている。利用者が昔よく行った場所や食べたものを情報として持って来て、毎月の受診時の帰り等に海岸沿いをコースにし、サーファーを見学したり職員と一緒に外食をしたりして支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように努めている。	入所の動機は、在宅ケアに困り果てて希望してくる方が多く、そういった家族は入所後事業所に任せっきりの傾向にある。しかし、利用者本人に個々に話を聞くと、どうしても目先の話になってはしまうが、一人ではないということから、お互いを思いやる気持ちを持っている方が多い。	入所時のアセスメントによる面談時には、毅然とした態度で、しっかりと家族やご本人の気持ちを確認する必要があることを感じます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勤めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の提案、アドバイスにより本人と家族の求める介護計画に近づくように作成している。	ケアマネージャーは複数事業所を兼務されており、週1回の来訪で入所後の変化の把握を行い、月に1回は職員会議にも出席している。管理者にとっては最も頼りにできる存在であることから、利用者と職員の懸け橋になってもらえることを期待している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。	通院支援は現場の職員が同行する事が良いという考え方で、提携医、かかりつけ医にも対応している。歯科医は月1回訪問診療を行っている。主治医との情報共有により、日常ケアへの対応も質が向上していくことを期待している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とコミュニケーションを取れるようにし退院後に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、緊急・終末期の方針及び対応等十分に説明し話し合い確認書を頂いている。医療機関と連帯を図り、かかりつけ医師の指示を仰ぎ、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	医療行為が必要な場合は入院への対応を行うが、老衰によるターミナルケアについては受け入れを行う。その場合、職員の教育が今後必要となり、一気にはなかなか出来ないが、外部研修にて徐々に対応が出来る人材を増やし、体制作りを行っていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師或いは系列法人の看護師と常時連絡が取れるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員の協力の下、地域の方と共同し日中・夜間と想定を変え年2回避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めるよう努めている。	防災訓練は、年2回定期的に行っているが、今後は、非常用持ち出しバッグや、ヘルメットや、飲料水など備品などの手配も行う予定である。訓練時には自治会や利用者家族にも参加を求める。	職員への防災意識を高めることも目的の一つであるが、利用者家族への安心をお届けするサービスの一環として行うことももう一つの目的であるという意識付けを期待したい。

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を把握しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。	ケース事例に対して、その対応を確認できるチェックシートがあり、職員一人ひとりに実施し、再確認を行っている。最も懸念されるのは、馴れ合いの中で本人の尊厳を無視した対応を無意識に行ってしまうことで、その意識付けの為に、注意を促すことを怠らない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。	外部業者から調達する食材も利用者に応じたきざみやとろみ付け、高血圧者への対応等、アレンジして提供している。味噌汁作りは事業所内で行う。又、利用者のお手伝いも、強制はせずあくまで自然体で出来る作業をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンでトイレ誘導をしている。現在、トイレでの排泄が可能な利用者はオムツ、パッド等を使用していない。	現在、日中はオムツやパッドを使わず、声掛けや誘導で対応が可能な状態である。一人ひとりのサインを早めにキャッチし、さりげない誘導を行うことで実現できている。時に、失禁するケースはあるが、否定せず、声掛けの回数を増やす等の対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を把握し、その時の利用者の状況で対応している。	通常は2日に1回は入浴をしているが、冬場は週2回程度に減っている。入浴介助については早番職員が午後の時間帯で対応する。入浴を拒否する利用者もあるにはあるが、無理強いをせず根気よく促す様に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物たたみ等をお願いしている。歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に許可を頂き外出支援についてご協力をして頂いている。利用者の希望にそって買い物に同行している。季節を感じられるよう、地域のイベントに参加し交流を計っている。	施設前の道路は交通量が多い為、日常的な外出はデッキや中庭程度であり、通院帰りの病院レストランでの外食などで楽しんでいる。昨年度は、全員で三日月ホテルバイキングを日帰りで行ったり、地域のイベントへの参加などで人と触れ合う機会を作っている。	



自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりができるように支援している。 困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中くつろいで過ごされているリビングに季節の花々を生け季節感を目で楽しんで頂いている。玄関、廊下等にイベント時の写真を飾り居心地の良い空間づくりに努めている。	日中の殆どの時間を過ごすリビングは散歩外出時に採取した草花を飾ったり、利用者の方達と作った押絵、切り花などが飾られていたり、廊下には職員による手作りポスターが貼られている。今回目新しいものとして、職員の似顔絵で紹介が、玄関に貼り出されていた。家族からの要望にお応えしたものである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、入居するまで使用していた品を持ち込んで頂いている。	居室内は、ベッド、エアコンカーテン、照明は事業所側で用意されており、それ以外、馴染みの物は自由に持ち込むことができる。家族が来訪されたときは、希望により一緒に宿泊することも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。		